企業のご紹介

日印ビジネス支援協会株式会社

生い立ち

日印ビジネス支援協会は、インド国防幕僚大学(修士課程)に留学し、デリーの日本大使館に参事官兼防衛駐在官として勤務した代表が、その時の勤務経験と人脈を生かし、日本とインドのビジネスの発展に貢献することを目的として任意団体として設立したのが始まりです。その約１年後の2011年10月に法人化して現在に至っております。これまで、山あり谷あり、正に波乱万丈でしたが、現在に至るも社員一同元気にやっております。お陰様で日本国内の企業のみならずインドの政府機関、民間企業からも様々な事業の依頼をいただくようになりました。今回はその中から現在取り組んでいるいくつかの事業について紹介させて頂きます。

現在取り組んでいる主な事業

①メガラヤ州シロンシイタケプロジェクト（略称Shi-Shi Project）

当社は本事業に宮城県のシイタケ栽培農家さん(水鳥農場)とともに取り組んでいます。標高1,600メートルの避暑地であるメガラヤ州シロンにおいて、同地の気候条件を活かし、現地の農民に高品質で安全なシイタケ栽培技術を伝授し、その農民が栽培したシイタケを現地の農業団体とともに立ち上げる会社(現地法人)が買い取って販売するという事業モデルです。農民の就農機会、および所得の向上に大きく貢献できます。インド国内のシイタケ需要については、2016年の調査時、年間約100トンの干しシイタケ(生シイタケ換算で1,000トン)が

シロン　Umiam Lake

シロン施設建築現場

キノコ開発センターにおける試験栽培

(参考)インドにおけるシイタケの商用栽培は、その後JICA円借款事業であるヒマチャルプラデシュ州農産物多様化促進事業においても進められ、当社は前出のシイタケ栽培農家さんとともにサブコンサルタントとして参加しました。ヒマチャルプラデシュ州の3名の技術者が事業のコア要員として水鳥農場で3ヶ月間の研修を終え、現地でシイタケ栽培に取り組んでいます。同事業は現在フェーズ２に移行し、我々の役目は終わりましたが、水鳥農場で研修した3名の技術者が必ずや事業を成功に導いてくれるものと期待しています。

消費されていましたが、これらは全て中国、韓国、タイ、オランダからの輸入物でした。現在の需要は、当社に対する問合せ件数が増えていることから、正確な統計が揃いませんが当時よりはかなり増大しているものと推測できます。

インド側はメガラヤ州政府のキノコ開発センターが中心となって取り組みます。センター長以下3名は2019年末に来日し水鳥農場で研修しました。現在、この3名がコアとなって事業を進めており、彼らが栽培技術を農民に伝授する際、我々も現地に赴き彼らの農民指導をお手伝いします。

現在、シイタケ栽培施設の建屋建設はほぼ完成し、日本からの機材搬入をする段階に来ており、今春、いよいよ農民による試験栽培を開始できる見込みです。

現地に建てたシイタケ栽培施設

普及員の来日と水鳥農場における研修

②メガラヤ州蕎麦品質向上事業

メガラヤ州農民強化委員会(州政府隷下組織)との包括契約に基づく事業の一つです。メガラヤ州では2019年に初めて蕎麦栽培にチャレンジしましたが、台風の影響などで失敗。2020年に再挑戦し成功しました。これを機に、本格的な商用栽培を目指すことになりましたが、そのためには需要の多い海外市場もターゲットにする必要があります。つまり輸出です。輸出するためには、収穫後の処理がしっかりなされなければなりません。この処理に関する技術を現地農民に伝授するのが旭川で30年の蕎麦栽培経験を有する農業エキスパートです。

本事業も農民の所得向上に大きく貢献できるため、事業に対するメガラヤ州農民強化委員会の期待は大きく、同委員会の蕎麦チームが蕎麦処理機材の研修と蕎麦打ち修行を目的に来日しました。

蕎麦打ち後の空いた時間に、神田明神と浅草寺をお参りして蕎麦事業の成功を祈願しました。農学博士の蕎麦チームリーダーは浅草で和服を着て大喜び。ほころんだ笑顔が印象的でした。

蕎麦チームの日本研修の成果に基づき、日本製蕎麦関連機材の購入が決まり、事業推進の目途が立って来ました。本年中に国内販売と輸出の実績を積めるよう準備に取り掛かっています。

蕎麦処理機製造工場研修

蕎麦打ち研修

神田明神

リーダー

浅草寺

③防衛関連事業

防衛装備品移転３原則の枠内で、インド軍並びに準軍隊に対する日本の防衛装備品提供の可能性に関する調査を行っています。

我が国の安全保障にとってインドの重要性は益々高まっていますが、そのインドとの防衛協力上、防衛装備品の共有は非常に重要になってきており、かつて在インド日本国大使館で防衛駐在官として勤務した当社代表の知見とネットワークを活かし、日印間防衛協力の進展に貢献すべく努力しております。当社のインド代表は退役陸軍大佐であり、当社代表のインド国防幕僚大学留学時のコースメートです。退役後は防衛産業分野で活躍し、インド防衛産業に通暁しておりますので、彼の知見とネットワークも本調査事業には欠かせません。

ランジート・シン
退役陸軍大佐

契約交渉余話

インドビジネスには
①絶対に成功させるという情熱と
②雑草のような忍耐力、そして
③ある程度の資金力が求められます。

州政府との契約事業を例にとれば、先ずはプロポーザル。こちらからプロポーザルを提出しないと何も始まりません。これは、JICA事業で企画書を提出しないと何も始まらないのと同じです。もちろん提出したからと言って採択されなければ何も始まりません。そのプロポーザルを提出し、州政府が「良い」と評価すればプレゼンに来いと言われますので、現地に赴きプレゼンをし、事業の実現可能性についてやんややんやと議論します。この旅費は持出しになります。その結果、州政府が投資に値すると判断した場合に契約交渉となります。この契約交渉、かなり骨が折れますが、対等の立場で粘り強く交渉すれば、光明が見えて来ます。もちろん、Emailと電話で事前に交渉を重ねて行きているのですが、最終的な読み合わせの時に、思わぬ要求があったりします。何を今更、などと腹を立ててはいけません。とにかく解決策の模索、つまり対案を出して妥協点を見出すことに全力集中です。当社の顧問である佐川氏(元伊藤忠インド社長)から「インド人から学ぶという姿勢を絶対に忘れないこと」と繰り返し教えられましたが、その教えとは正にこのことかと痛感させられます。

シロンシイタケプロジェクトの最終的な契約交渉では、朝の１０時から昼食休憩45分を入れ、夕方の６時までかかりました。Face to faceで案の全文を１行ずつ読み合わせて行き、その間になされる様々な要求に対して、その場で交渉を重ねていきます。「さすがインド人、そんな発想するか」などと思いながら交渉するのは結構楽しいものです。そして、契約がまとまった時の喜びはひとしおです。

州政府事業の場合、契約がまとまるとメディアを呼んで契約成立をお披露目します。インタヴューも沢山受けます。これまた楽しいひと時です。

Japanese firm keen to start Shiitake mushroom cultivation

By Our Reporter

SHILLONG: The State Government is now keen to promote edible Shiitake mushroom in the state in collaboration with a Japanese delegation Yats Corporation Co Ltd.

A delegation from the company on Tuesday held detailed discussions with the Agriculture Department and Agriculture Minister here after which both the parties decided to sign an MOU in this regard at the earliest.

Speaking to media persons after the meeting, Agriculture Minister, Banteidor Lyngdoh said the initiative is a big opportunity for the famers of the state.

Stating that the price of Shiitake mushroom is much higher than other mushrooms, he added that the special kind of mushroom is being used in high end hotels across the globe.

According to Lyngdoh, if the idea goes ahead as planned, Meghalaya would be able to produce 1000 metric tonnes of Shiitake mushroom in the next five years, adding the State would not have to face marketing problem since the company itself would by the mushrooms after cultivation.

Under the programme for which an MoU is likely to be signed in a week's time, some officers and farmers from the state would also be sent for training to Japan for a period of three months.

The Minister also exuded confidence that this partnership will not be like previous partnership with foreign companies which have not yielded desired results.

Currently, the state is producing only oyster and button mushrooms in plenty.

It is said that the climate for cultivation of Shiitake mushroom is conducive in East Khasi Hills, West and South West Khasi Hills but not in Ri Bhoi and Garo Hills

On the other hand, Representative Director of Yats corporate Co Ltd, Yasuhide Ito, said the company has the technology to cultivate Shiitake mushroom and the technology will be brought and implemented in Meghalaya.

Representative Director of YATS Corporation Co Ltd. Yasuhide Ito greets Agriculture Minister B Lyngdoh at Main Secretariat on Tuesday. (ST)

地元紙に掲載された記事

＜プロフィール＞
日印ビジネス支援協会株式会社
代表取締役／国際行政書士　平野隆之

元在インド日本国大使館参事官兼防衛駐在官（陸上自衛隊退官時陸将補）、防衛大卒、インド国防幕僚大学卒（インドマドラス大学修士号）、国際行政書士